

NEWS RELEASE

中国・10世紀、乱世の小さな仏教国 呉越国

パラダイス

ごえつこく

特別展 地上の天堂 杭州と呉越国——渡海する信仰と美

～日本に伝えられた浄土への想い～

近鉄グループの文化事業である大和文華館では、2026年10月24日(土)～12月6日(日)まで、特別展「地上の天堂 杭州と呉越国——渡海する信仰と美」を開催いたします。

「天有天堂、地有蘇杭」(天には天国があるように、地には蘇州・杭州がある)——江南の杭州は実り豊かな豊穡の土地として、また西湖に代表される景勝の地として、古くより憧れの対象となりました。また貿易港として海上交通の要衝でもあり、呉越国の初代国王 錢鏐による銭塘江の護岸工事や運河の発達、海商たちの活躍により、杭州は国際都市として文化をつなぐ役割を果たしてきました。

また五代十国時代(10世紀)、杭州を首都とした呉越国は仏教が栄え、浄慈寺をはじめ、寺院や仏塔で溢れていました。第五代国王 錢弘俶が発願した「錢弘俶塔」は、呉越国の領土であった地域を除き、東アジアでは日本で最も数多く発見されています。また近年、中国では活発な発掘調査によって、呉越国時代の仏教が北宋時代以降も民間に根付いていたことが知られます。

この展覧会では、呉越文化の伝播とその日本における信仰のあり方について再考するとともに、美しい杭州のイメージをたどり、国際文化都市としての杭州に焦点を当て、平安時代の日本や高麗、大理国など、広く交差した文化の流れを見て行きます。

詳細は別紙のとおりです。



重要文化財 西湖図

秋月等観筆 室町時代・1496年
石川県立美術館



青磁劃花龍文陶片

中国・五代十国～北宋時代・10～11世紀
東京国立博物館



錢弘俶八万四千塔

中国・五代十国時代・10世紀
個人蔵

別紙

<1> 展覧会について

1. 名 称 特別展 「地上の天堂 杭州と呉越国——渡海する信仰と美」
パラダイス ごえつこく
2. 会 期 2026年10月24日（土）～12月6日（日）
月曜日休館（ただし、11月23日〈祝〉は開館し、翌24日〈火〉が休館）
【前期】10月24日（土）～11月15日（日）
【後期】11月17日（火）～12月6日（日）
3. 開 館 時 間 午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
4. 入 館 料 一般 1,100円、高校・大学生 770円 小学・中学生 無料
5. 主 催 公益財団法人大和文華館、近鉄グループホールディングス株式会社
共 催 毎日新聞社
展覧会助成 芸術文化振興基金
6. 出 陳 品 数 77件

代表的な展示作品

●＝国宝 ◎＝重要文化財 ※展示替えがあります。

【第一章 地上の天堂 杭州——麗しき西湖が護る都市】

◎西湖図 秋月等観筆 室町時代・1496年 石川県立美術館【前期】

- ・青磁劃花龍文陶片（越窯址採集陶片のうち） 越窯 中国・五代十国～北宋時代・10～11世紀 東京国立博物館（百瀬治氏・百瀬富美子氏寄贈）
- ・表忠観碑（拓本）（原碑）中国・北宋時代・元豊元年（1078）東京国立博物館【前後期展示替】

【第二章 「凡在有情、希沾妙喜」——浄土、すべてのもののの中にあらんことを】

はんざいうじょう きてんみょうき

- ・銭弘俶八万四千塔 中国・五代十国時代・10世紀 個人蔵
- 『宗鏡録』巻第一 永明延寿著・銭俶序 中国・南宋時代・12世紀 京都・醍醐寺 【後期】
- ◎夢記〔第十篇〕 鎌倉時代・13世紀 京都・高山寺【後期】

【第三章 日本における「銭弘俶塔」の信仰と展開——10世紀、乱世に崇仏王の祈りは静かに広がり、そして海を渡った】

- 水月観音鏡像 中国・五代～北宋時代 京都・清涼寺
- ◎六道絵 鎌倉時代・13世紀 兵庫・極楽寺【前期】
- ◎地獄極楽図屏風 鎌倉時代 京都・金戒光明寺 【後期】

【第四章 国際都市 杭州——交差する東アジアの美】

- ・重要文化財 銅鏡（部分） 鏡胎：中国・唐時代／線刻：平安時代 鳥取・三佛寺
- ・鍍金観音菩薩像 大理国・12世紀 泉屋博古館
- ◎青磁九龍浄瓶 朝鮮・高麗時代 大和文華館

<2> 関連イベント

1. 国際シンポジウム

「『銭弘俶八万四千塔』の背景を求めて―中国江南と西北地域における劉薩訶と阿育王塔―」

(1) 日時・場所 11月1日(日) 午後1時～午後4時30分 講堂

(2) 発表者 京都大学人文科学研究所教授 稲本泰生氏
大阪市立美術館学芸員 田林啓氏
中国・敦煌研究院編集部副研究員 丁得天氏
当館学芸部課長 瀧朝子

※参加方法等詳細は別添書類参照

2. 講演会「呉越国と禅」

(1) 日時・場所 11月29日(日) 午後2時～ 講堂

(2) 講師 東京大学東洋文化研究所准教授 柳幹康氏

3. 日曜美術講座「悠久の呉越国文化と美術」

(1) 日時・場所 11月15日(日) 午後2時～ 講堂

(2) 講師 当館学芸部課長 瀧朝子

4. 列品解説

(1) 日時・場所 毎週土曜日 14時から 展示場

(2) 解説 当館学芸部

※何れのイベントも参加は無料ですが、入館料が必要です。

5. 無料招待デー 10月30日(金) 大和文華館開館記念日

以 上

シンポジウム

^{せんこうしゆく}

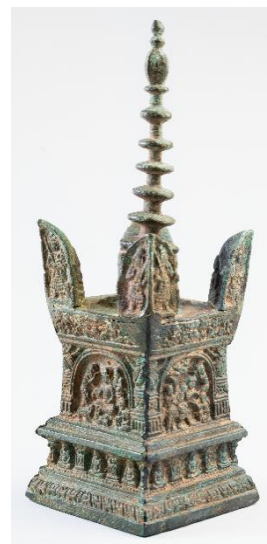
「錢弘俶八万四千塔」の背景を求めて

^{りゅうさつか}

ー 中国江南と西北地域における劉薩訶と阿育王塔 ー

日本で「錢弘俶八万四千塔」と呼ばれる小型の銅製塔は、呉越国王の錢弘俶が発願、製作させて、その領土内に頒布し、また交流のあった地域にもたらされたものであり、呉越国と日本との直接的な交渉がうかがえるものとして美術史や考古学の面からも早くから知られてきました。中国で「錢弘俶八万四千塔」は「阿育王塔」と呼ばれ、江南の舍利信仰・阿育王塔への崇拜は鄞県(浙江省寧波市)にて劉薩訶(^{えだつ}慧達)が感得した舍利塔への信仰を基盤としています。劉薩訶は江南と西北地域ではその役割および表現が異なり、日本には主に江南における劉薩訶の事績が伝えられてきました。シンポジウムでは「錢弘俶八万四千塔」の背景として、近年の研究成果や新しい調査を踏まえて、中国の江南と西北における地域的な信仰のあり方とその表現について考えます。

1. 日時 令和8年11月1日(日) 13:00 ~ 16:30
2. 場所 大和文華館 講堂
3. 発表者 稲本泰生氏(京都大学人文科学研究所教授)
田林 啓氏(大阪市立美術館学芸員)
丁 得天氏(中国・敦煌研究院編集部副研究員)
瀧 朝子(大和文華館学芸部課長)
4. 主催 公益財団法人大和文華館 美術史学会西支部



錢弘俶八万四千塔
中国・五代十国時代 10 世紀 個人蔵

【参加方法】

- 参加費は無料ですが、当日の入館料は必要です。
- 定員は120名、**往復ハガキ**での事前申込制となります。
- 参加ご希望の方は下記記入事項と返信用宛先をご記入の上、「大和文華館 シンポジウム係」までお送りください。

<記入事項> 1. お名前(2名様までお申し込みいただけます。)
2. ご住所
3. 電話番号
※返信用宛先も必ずご記入ください。

<宛先> 〒631-0034 奈良市学園南1-11-6 大和文華館 シンポジウム係

<締切> **10月16日(金) 必着**

※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

当選者には20日(火)に返信用ハガキにて参加証を発送いたします。